

# 平成 22 年度 発掘調査速報会



平成 22 年 12 月 12 日(日)  
村山市総合文化複合施設 甌葉プラザ

主催：財団法人山形県埋蔵文化財センター  
共催：村山市教育委員会





# 次第

開 会 13:00

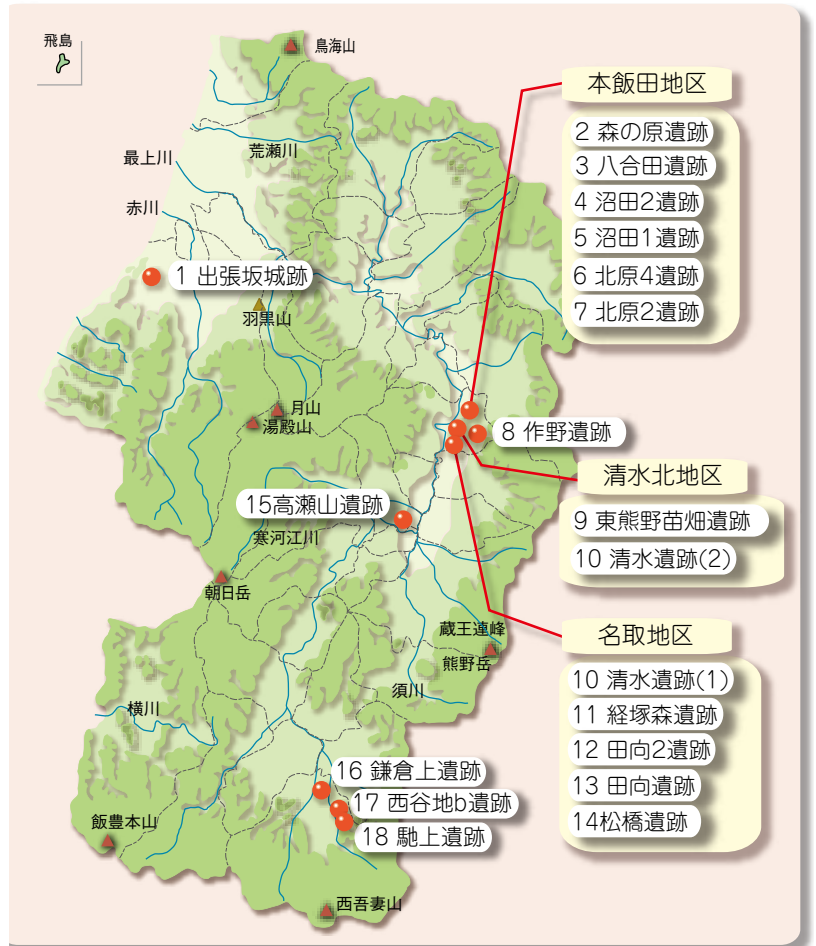
報 告 13:15～

- 1 かまくらかみ 鎌倉上遺跡
- 2 はせがみ 馳上遺跡
- 3 にしやち 西谷地b遺跡

休 憩 (出土品の説明)

- 4 まつはし 松橋遺跡
- 5 しず 清水遺跡
- 6 さくの 作野遺跡

閉 会 15:45



## 平成22年度 財団法人山形県埋蔵文化財センター発掘調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	時代	種別	調査面積	事業名
1 出張坂城跡	鶴岡市下清水	中世	城館跡	600㎡	国道7号鶴岡バイパス建設工事
2 森の原遺跡	村山市大字土生田	縄文・平安	集落跡	755㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
3 八合田遺跡	村山市大字土生田	縄文	集落跡	600㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
4 沼田2遺跡	村山市大字土生田	縄文・平安	集落跡	3,700㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
5 沼田1遺跡	村山市大字土生田	縄文	集落跡	1,200㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
6 北原4遺跡	村山市大字本飯田	縄文・平安	集落跡	3,000㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
7 北原2遺跡	村山市大字本飯田	縄文	集落跡	500㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
8 作野遺跡	村山市楯岡	縄文	集落跡	250㎡	徳内・シーボルトライン道路改良事業
9 東熊野苗畑遺跡	村山市大字本飯田	縄文・平安	集落跡	2,900㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
10 清水遺跡 (1)	村山市名取	縄文・平安	集落跡	6,800㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
10 清水遺跡 (2)				5,900㎡	
11 経塚森遺跡	村山市名取	縄文	集落跡	3,120㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
12 田向2遺跡	村山市大字名取	平安	集落跡	2,500㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
13 田向遺跡	村山市大字名取	平安	集落跡	4,500㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
14 松橋遺跡	村山市大字名取	平安	集落跡	4,200㎡	東北中央自動車道(東根～尾花沢)
15 高瀬山遺跡	寒河江市大字寒河江	旧石器・縄文	集落跡	1,500㎡	最上川ふるさと総合公園都市公園整備事業
16 鎌倉上遺跡	米沢市窪田町	古墳	集落跡	3,500㎡	一般国道287号米沢北バイパス
17 西谷地b遺跡	米沢市大字川井	奈良・平安・中世	集落跡	11,240㎡	東北中央自動車道(米沢～米沢北)
18 馳上遺跡	米沢市大字川井	古墳・奈良・平安	集落跡	9,800㎡	東北中央自動車道(米沢～米沢北)

表紙写真: 左上・清水遺跡(1)説明会 右上・清水遺跡(2)出土遺物 左下・馳上遺跡出土遺物 右下・鎌倉上遺跡竅穴住居跡

鎌倉上遺跡は、昨年続き第2次調査を実施しました。遺跡は米沢南陽道路の米沢北インターチェンジから、東へ約350mの地点に位置し、西に鬼面川、東に最上川の2つの河川にはさまれた低地に立地する古墳時代の集落跡です。

今年の調査では、古墳時代の竪穴住居跡、溝跡、河川跡、捨て場が検出されました。遺跡は、調査区の中央に東西にのびる河川跡があり、その南側と北側に竪穴住居が建てられていました。住居跡は、南側に3棟、北側に9棟が確認されました。平面は方形で、規模は一辺が3.5～6mになります。南側の住居群は古墳時代前期の4世紀頃の時期で、昨年の調査区で確認された住居跡と同時期と考えられます。住居の中には火をたいた炉跡が認められます。



火災に遭ったと考えられるST105住居跡です。住居の柱材や屋根材などが焼けて炭となり、残されていました。

北側の住居群は、古墳時代後期、6世紀頃になります。ほとんどが炊事を行うカマドを備えています。カマドは状態良く残っているものが多く、トンネル状に掘られた煙道が備わっているものもあります。また、火災に遭ったと考えられる住居も確認され、炭化した柱材などが一面に残されていました。また、住居の隅やカマドからは、使用された甕や坏などの器がまとまって残っていました。

出土品で、最も多いのは日常の生活で使用された土師器です。その他、須恵器、木製品、装身具の櫛や管玉、石製模造品などの祭祀具が出土しました。特に竪穴住居跡の中からは、ほぼ完全な形の土師器の甕・坏・蒸器の甑、甕などが出土しています。注目されるのは、黒漆が塗られた櫛です。集落から出土したのは珍しい例で、この集落の有力者が身に着けていた物と考えられます。

(菅原哲文)



古墳時代の櫛です。歯の部分は失われていますが、結歯式の櫛になります。

馳上遺跡は米沢市役所の東方約1kmに位置する、古墳時代と奈良・平安時代の集落跡です。平成12年度に県道改良工事に係る発掘調査（第1次調査）が行われました。また昨年度（平成21年度）には、高速道路建設に伴う第2次の発掘調査を、遺跡範囲の西域に当たる11,750㎡を対象として実施しました。

今回の第3次調査は、第2次調査に継続するもので、遺跡範囲西側の南北両端域に係る約8,800㎡を対象としました。

今回見つかった遺構には、住まいや倉庫であった竪穴住居跡や掘立柱建物跡、廃棄物用の穴と考えられる大小の土坑、区画や排水に使われた溝跡などがあります。また、羽黒川の支流であったと思われる河川跡も見つかりました。竪穴住居跡は30棟余確認され、大きさは方形で一辺が3～5mの規模のものが一般的ですが、9mにも及ぶ大型の住居跡も1棟検出されています。掘立柱建物跡は、規模が大きな柱穴をもつ3棟が見つかりました。これらは東西二間×南北



奥は工事中の東北中央自動車道の橋脚です。中央には、方形に柱穴が並んだ掘立柱建物跡があります。



大型の竪穴住居跡を精査しているところです。1辺の長さが約9mを測ります。

三間の構成で、柱間の距離は約2.7m、柱穴の掘り方は径・深さとも約1mと大きいものです。

遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器・黒色土器などが、主に住居跡や河川跡から多く出土しています。煮炊き用の土師器の甕、貯蔵用の須恵器の甕・壺、食器である須恵器や黒色土器の坏などが認められます。また溝跡からは、内側に取手が付く土塼も出土しており、中世にも集落が営まれていたことがわかります。第1次・2次調査では、硯や墨書土器、雨乞い<sup>きとうふだ</sup>または止雨の祭祀に使用したと考えられる祈祷札なども見つかっています。

集落は、旧河川沿いに立地しており、大型の建物跡は、当時の倉庫と思われることから、遺跡内は船運を利用した物資の集積場所であった可能性が想定されます。出土品には、一般的な集落とは異なる様相が窺われ、郡や郷の役所と関連した出先機関的な所とも考えられます。（須賀井新人）

奈良時代、平安時代、中世に営まれた集落遺跡である西谷地b遺跡の発掘調査は、昨年度に第1次調査、今年度に第2次調査が行われました。遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地に位置し、現在までは水田となっていました。

第1次調査では、炭窯と中世の環濠屋敷などが見つかりました。今回の第2次調査では、奈良・平安時代に属する21棟の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、川跡など、中世に属する掘立柱建物跡、溝跡などが見つかりました。隣接する馳上遺跡でも同様の遺構が見つかり、関連がうかがわれます。

奈良時代、平安時代の竪穴住居跡は主に調査区の南半分に分布しています。竪穴住居跡にはカマド・煙道が付属し往時の暮らしを垣間見ることができます。中には焼失住居もあり、焼け落ちた建築部材・葺き土などが残っていました。掘立柱建物跡では、倉庫跡と考えられる総柱建物が目立ちます。柱穴は、ほかにも数多く見つかり、さらに多くの建物跡が復元できます。

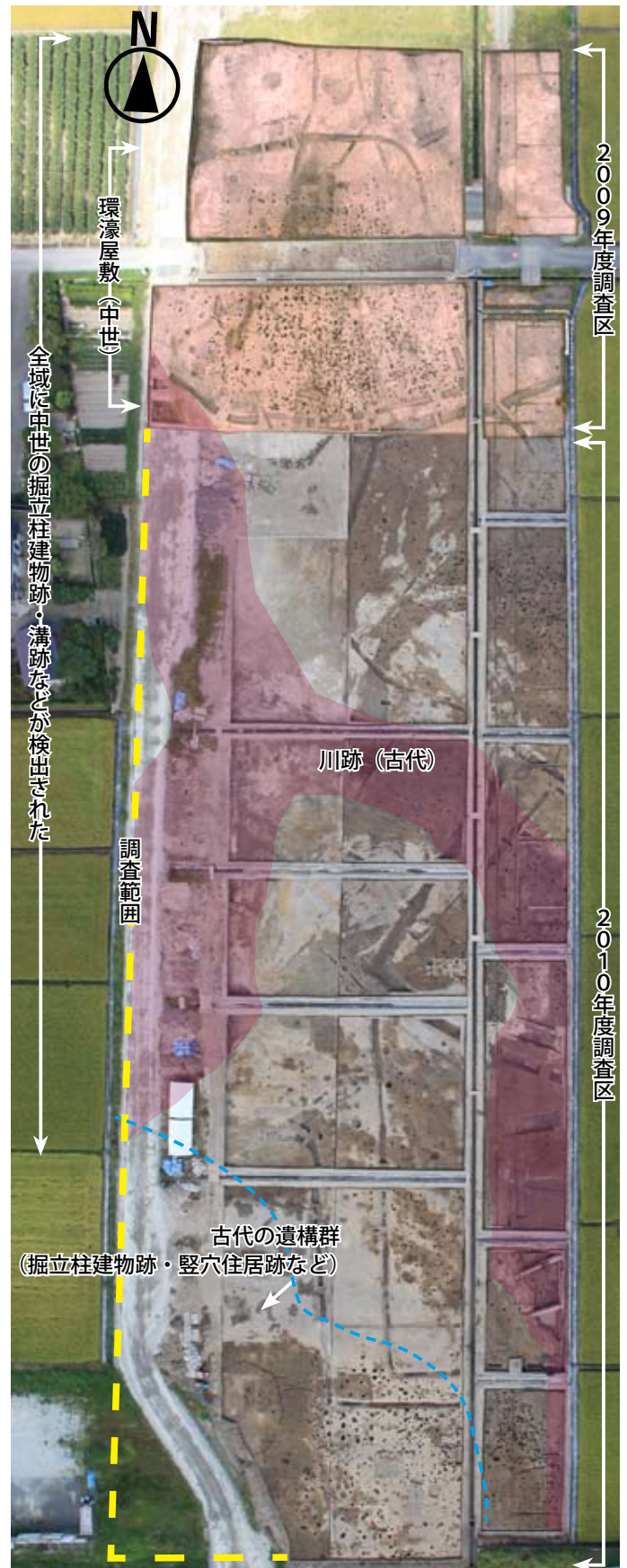
中世に属する柱穴も多数見つかり、これら柱穴は10条ほどの溝跡によって区切られています。中からは16世紀に作られた内耳土鍋が出土しており、この時まで

には埋め戻されたことが分かります。ほかに伊達家の家紋が描かれた漆椀も出土しており、伊達家に関連する人物が住んでいた可能性が高くなりました。

(水戸部秀樹)



伊達家の家紋(三引両文)



2009年度と2010年度の調査区全景です。

作野遺跡は、村山市楯岡字笛田に位置し、大沢川左岸の扇状地扇頂部に立地する、主に縄文時代後期末（約 3,200 年前）～弥生時代初頭（約 2,300 年前）の集落跡です。

宅地造成、県の送水管工事、村山市の徳内・シーボルトライン道路改良事業に伴い、山形大学、県教育委員会（第 1 次調査）、山形県埋蔵文化財センター（第 2 次調査）が、それぞれ発掘調査を行いました。調査では、縄文時代晩期

の竪穴住居跡 4 棟、東日本では数少ない弥生時代初頭の竪穴住居跡 1 棟、縄文時代後期末～同晩期の貯蔵穴群などが確認されています。

今回は、昨年度の徳内・シーボルトライン道路改良事業に付設される市道工事に伴い、発掘調査（第 3 次調査）を行いました。調査区南部で縄文時代晩期中～

後葉（約 2,500 年前）の谷跡、調査区中央部～北部の岸辺で同時期の大型の柱穴や土坑、溝跡などが発見されました。

谷跡は、幅約 4 m 以上、長さ約 6 m 以上、深さは約 1.5 m ありました。多量の縄文土器や石器、祭祀具の土偶や石刀、石棒、装飾品さいしぐ どぐう せきとう せきぼうのヒスイ製の勾玉や玉など多様な出土品がありました。これらは、谷の底から徐々に堆積した 4 層の地層毎に出土し、当時の生活用品の特徴や変化などが分かります。北側の岸辺（平場）では、直径約 1 m 前後の土坑が集中し、更に北側には建物を構成する大型柱穴が確認されました。

今次調査区の北西を山形大学が調査した際も、同時期の竪穴住居跡が確認されています。集落の主体は今次調査区の北側に広がります。谷は集落の南側縁辺にあたりと考えられます。南北約 200 m の大規模な集落と判断できます。県内では数少ない新潟県産のヒスイ製の勾玉や玉類から、本遺跡は当地域の拠点集落で、他地域との積極的な交流があったことがうかがえます。

（植松暁彦）



谷跡の調査風景（右下に土器が集中しています）



石刀の柄（男性器を模しています）



糸魚川産のヒスイ製の玉



同左 勾玉（県内同時期では 8 遺跡のみ出土）

松橋遺跡は、村山市東部に位置し、村山市役所の北西約 500m の名取地区松橋集落の自然堤防上に立地しています。

調査では掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、柱穴などが検出され、土師器、須恵器、陶磁器などが出土しました。

建物跡は 4 棟確認され、2 間×4 間の規模で北と南に庇（ひさし）をもつもの、2 間×4 間の規模で西側に庇をもつものがあり、この 2 棟はその配置から同時期の建物と考えられます。建

物の南側には塀と思われる柱列跡があります。他に、2 間×3 間の規模で、中央にも柱がある倉庫と考えられる総柱の建物、溝に囲まれた建物が見つかりました。

井戸跡は 12 基確認されました。全て素掘りの井戸ですが、その形態の違いから平安時代と中世のものがあると考えられます。中には、石を入れて埋めたものや、ほぼ完全な形の土器が出土したものもあります。井戸跡の埋土からは、火山灰が検出されています。この火山灰は 915 年に噴火した十和田火山の灰の可能性があります。その他、中世の青磁片が出土した溝跡や、焼土と共に破損した土器が出土した土坑などが見つかりました。

遺物は平安時代の土師器が多く、須恵器は僅かです。器種は、坏や有台坏、甕などで、須恵器には甕の底を硯（すずり）に転用したと思われるものも出土しました。これらの土器は器の形や底部の切り離しの痕跡から 10



庇（ひさし）をもつ建物跡が L 字状に配置され、右側に塀と思われる柱列があります。

世紀前半の所産と考えられます。また、中国の龍泉窯で焼かれた中世の青磁の破片が 1 点出土しました。

以上から、遺跡は平安時代と中世にわたる集落跡で、井戸跡や溝跡が多く確認されたことから豊富な水を利用して人々が生活を営んでいたことがうかがえます。（氏家信行）



遺跡から出土した土器です。土師器（上）は素焼き、須恵器（下）は窯で焼かれています。

# しず 清水遺跡 (1) —溝に捨てられた大量の土器—

村山市

清水遺跡は、さくらんぼカントリークラブのある丘陵の山麓部に位置し、現在の清水集落のほとんどを含む広大な遺跡です。遺跡の南端部を清水遺跡 (1)、北端部を清水遺跡 (2) として調査を実施しました。

調査区は丘陵の斜面部分と、水田だった低地部分に分かれます。低地部分では、大小の溝跡が多く見つかっています。この場所は両側の丘陵に挟まれた谷状の地形で、古くは川が流れていたと考えられます。現在設置されている農業用の用水路と同様に、排水や灌漑のために掘られた溝の可能性があります。溝は 10 ～ 50cm 程の深さで、部分的に 1 m 程に深く掘られています。

その周辺から土師器や須恵器など平安時代の土器が多量に出土しました。土器には完全な形のものも見られます。墨で文字を書いた墨書土器も出土しています。「縄」や「矢田」の文字が認められます。周辺の遺跡では、河北町の熊野台遺跡で同じ「縄」の墨書土器が 1 点出土しています。墨書土器には、地名や人名、まじないの文字等がよく書かれますが、「縄」が何を示しているかは不明です。「矢田」は人名または地名と考えられます。

丘陵の斜面部分からは竪穴住居跡が 5 棟見つかりました。そのうち 1 棟は規模が大きく、床面に焼土があること、鉄滓が出土していること等から工房と考えられます。



丘陵から低地部分を望んだ様子です。村山盆地が一望できます。

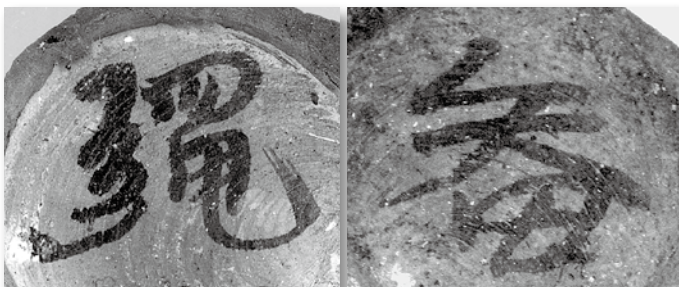
溝や竪穴住居の一部には火山灰が堆積していました。西暦 915 年に噴火したとされる十和田火山の火山灰の可能性ががあります。

今回の発掘調査の結果、丘陵のすそに竪穴住居が並び、低地には排水や灌漑のための溝が掘られている景観が復元できました。火山灰の堆積している様子や、出土した土器の特徴から、集落が存続した時期は 9 世紀後半頃で、火山灰が降った 10 世紀初頭には集落はすでに廃絶していたと考えられます。

(高桑登)



ベルト上部の白い部分が火山灰です。溝が埋まったあとに火山灰が積もったことがわかります。



「縄」の墨書土器が最も多く、6 点出土しました。この他「方」の字などがあります。



## しず 清水遺跡 (2) —傾斜地に形成された集落跡—

村山市

清水遺跡は、村山市のほぼ中央に位置し、最上川右岸の丘陵地に立地する大きな遺跡です。「清水遺跡(2)」はその北側の地点です。

まず、確認用のトレンチを設置して掘り下げ、実際の遺構と遺物の分布範囲を調査したのち、今年度に発掘調査を行う部分と来年度以降に行う部分に分け、今年度は、市道沿いの部分のみを調査することになりました。

調査区は南から A 区、B 区と分けました。

B 区は斜面地が削平され、耕作による攪乱も激しく受けていることから、遺構の残存状況はよくありませんでした。

A 区は丘陵の斜面地ですが、竪穴住居跡 20 棟以上、掘立柱建物跡が 3 棟見つかりました。竪穴住居跡は一辺が 4 m ほどのものから 8m のものまで様々な大きさで、水はけのよい傾斜地に造成されています。軸方向は北向きと北北東向きに分かれ、微妙な時期の差があるようです。多くは横長の楕円形のカマドを持ち、床面に貼床を設けて水平を保つように調整されています。ST137 竪穴住居跡からは大量の炭化材と焼土が出土し、火災で焼失した住居跡であると推定されます。

竪穴住居跡に堆積した土の層を観察する



調査区の遠景です。正面の丘陵の裾野に集落がありました。

と、灰白色の火山灰が堆積しているものも見られました。火山灰は 915 年に降灰した十和田火山のものとみられ、出土した土器の形から見ても、その前後である 9 世紀後半から 10 世紀初頭にかけて集落が存続したと見られます。また、掘立柱建物跡は比較的小型のものが、かたわらの竪穴住居跡と同じ軸方向に建てられていることから、竪穴住居跡と同じ年代であると推定されます。

(齋藤健)



竪穴住居跡 ST5 の完掘状況です。斜面に建てられ、南壁の西側(右奥)にカマドが設けられています。



ST56 竪穴住居跡のカマドを完掘した状況です。上部は壊れていますが、楕円形の下部構造が残っていました。

東熊野苗畑遺跡は、山形盆地と尾花沢盆地の境界、最上川三難所の一つの隼の瀬から約2km離れた本飯田字熊の山に位置します。地形的には、昭和橋付近から南東に延びる谷筋の、さらに「ゆぎ温泉」の南約200mから東に分岐する浅い谷間（袖崎低地）に立地しています。

調査によって、縄文時代と平安時代の遺構・遺物、そして埋没した最上川の支流の一部が発見されました。

西区の北側では、竪穴住居跡と掘立柱建物跡、住居跡と建物跡を囲む幅約30cmの浅い溝跡が見つかりました。特に溝の底部からは、西暦915年に噴火した十和田湖の灰白色火山灰とみられる火山灰を検出しました。

東区では、現地形の低地部で、南西—北東に走る河川跡が見つかりました。深さは、水田造成で上部が削平されていますが、0.6～2m程度で、北に行くほど深くなっていました。河川跡の輪郭を平面上で検出した時点では、蛇行した4本程度の流路が、部分的に掘り下げたトレンチの土層観察からは、4本以上の流路が認められました。河川跡の土層からは、水が流れていた時期や渇水していた時期を繰り返し、また幾度となく流路を変えていたことが判りました。さらに、埋没後も地下水が流れていたことも判りました。

一番新しい河川跡には、河川が湿地になった時期に、灰白色火山灰が降り積もっていました。火山灰堆積後にも、幅1m程度の浅い流路は認められますが、火山灰が降灰して少し時間を経たのちに、河川としての機能を失ったと考えられます。古い河川跡では、その底部から、縄文土器や石器が出土しま

した。これらの遺物には、表面に磨滅した痕跡が認められます。しかし、調査区内に縄文時代の遺構は見られません。したがって、これらの遺物は、おそらく上流部にある縄文時代の遺構から流されてきたものと思われます。これらの遺物がいつ流されてきたのかは、まだはっきりしませんが、少なくとも灰白色火山灰が堆積する以前に流されてきたものです。

また河川跡からは、樹木や種子、昆虫の羽根なども多量に出土しました。今後、土壌に残る花粉化石の分析を合わせて、当時の本遺跡周辺がどのような気候であったか、そしてどのような植物が生い茂っていたのかを明らかにする予定です。

東熊野苗畑遺跡では、最上川の支流とともに、その周辺に営まれていた古代の人々の生活の痕跡が認められました。また、流されてきた縄文時代の遺物も認められました。河川跡に残された古環境に関する試料の解析が進めば、村山盆地北部の当時の気候を加味した、過去の生活像の復元が可能になると考えています。

（大場正善）



蛇行する河川跡が、複数絡み合っています。

沼田2遺跡はJR袖崎駅の西に位置しています。遺跡の西に沢の目川が流れ、北に赤石・高玉地区があります。

見つかった遺構は主に縄文時代と平安時代のものがあります。縄文時代では、陥穴・土坑・ピットがあります。陥穴は5基あり、調査区の北東側から南西側へ列を成して掘られていました。その先には沼跡と考えられる遺構があるため、けもの道をつかい水を飲みに来る動物たちを捕まえていた可能性<sup>さかもぎ</sup>があります。陥穴には逆茂木と呼ばれる獲物の自由を奪うための杭跡が確認されています。その他のピットや土坑につい



縄文時代の土器と須恵器（右下の2つ）が見つかりました。



おとしあなれつ  
狩り用の陥穴列です。調査区の西にある沼跡に向かって5基掘られています。

てははっきりとした用途が分かっていません。しかし、遺構の中から土器が出土していることから、付近で何らかの生活が営まれていたと考えることができます。これらの土器は今から約3,000年～約2,500年前の縄文時代後・晩期のものでした。しかし、陥穴と遺物が出土した遺構とでは時期が違う可能性が高いようです。

また、平安時代の溝跡が見つっています。調査区を東西に横断しており、東から西にかけて傾斜しているのが確認されました。溝跡の西には沼跡があり、水を流していたことが認められるため、排水のための溝跡であったと考えています。このことから、おそらくは調査区の東側に集落があり、そこに住む人々が使用したものと推測することができます。

また、溝跡からは縄文土器や石器とともに須恵器の坏の破片が出土しています。このことから、この遺跡では各時代を通して、沼を利用して人々の生活が営まれていたことが伺えます。

(渡辺和行)

**田向遺跡** A区からは、溝跡、柱穴、土坑などが検出されました。溝跡は調査区の西側に多く分布していますが、遺物の出土がなく、時期を判断することは現時点では難しそうです。B区では、溝跡、柱穴、土坑などが検出されました。溝跡は1条、調査区の南西隅で確認されました。遺物の出土がなかったため、時期の判断はできませんでした。また、柱穴は、対応する柱穴がなく建物跡として構成することはできませんでした。遺物は、A区・B区それぞれ極めて少数の出土となりま

した。平安時代の所産と考えられるロクロを使用してつくられた土師器や須恵器の破片が出土しています。(高橋敏)



溝跡の調査風景

**田向2遺跡** 竪穴状遺構、焼土遺構、溝跡、井戸跡、土坑が検出されました。竪穴状遺構は、約2m四方で、遺構の外周に浅い溝がめぐっており、また、全体に浅く窪んでいました。遺構の堆積土からは土師器片が、中央からは、わずかながら木炭が出土しました。また、遺構の南西角の隣には、焼土遺構があり、焼け土と木炭、土師器片が混じっていました。この竪穴状遺構は、住居跡の可能性もあります。溝跡は、竪穴状遺構の北側と、竪穴状遺構のそばにある溝の東側の延長線上で

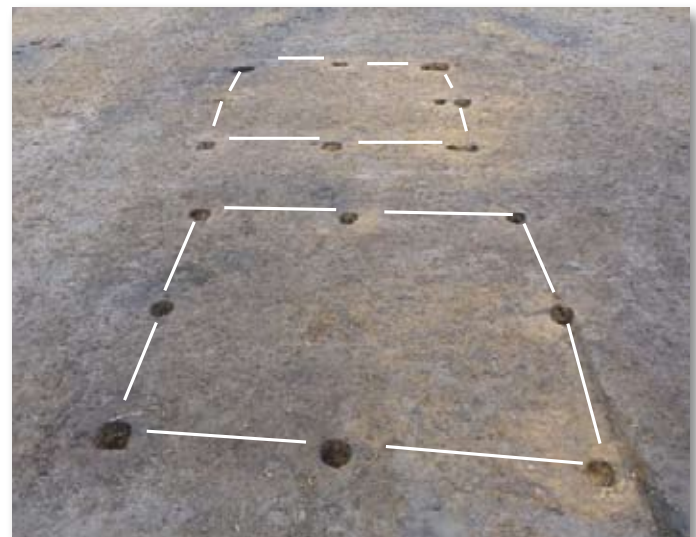
見つかりました。溝跡の堆積土からは、平安時代の土師器片が出土しました。井戸跡は調査区の西端中央と南西部の2か所で見つかりました。ともに深さが約1.5mあり、地下水が染み出す青灰色の粘土層まで掘り下げられた、素掘りの井戸です。



(三浦勝美)

素掘りの井戸跡

**経塚森遺跡** 掘立柱建物跡、溝跡、土坑などが検出されました。掘立柱建物跡は調査区の中央で、2棟が東西に並んだ状態で見つかりました。いずれも柱間は2×2間、規模は約3.5m×約3.3m、柱穴の掘り方は円形で、直径は約30cmと全体としては小規模で、小型の倉庫と考えられます。溝跡は、南西―北東方向に、長さ約12mと約2mのものがみつかり、同一の遺構と考えられます。遺物は、平安時代のロクロを使用してつくられた土師器や須恵器といった土器がみつかり、



掘立柱建物跡が並んでいます。

(三浦勝美)

北原4遺跡 土坑、溝跡、ピット、性格不明遺構が検出されました。溝跡は、北西―南東方向に2本見つかりましたが、現代のものと考えられます。遺物の出土はわずかで、縄文土器、土師器、須恵器、石器などが見つかりました。しかし、遺構内部から見つかったものではなく、耕作土である表土層や、その下の黒色土から見つかったものです。おそらく、耕作整地などにより、攪乱され出土したものと思われま

(佐竹弘嗣)



遺跡遠景（東より）

八合田遺跡 ピットや不定形の土坑、さらに水が溜まっていたと考えられる溝状の落ち込みが検出されました。遺物は石鏃や縄文土器が出土しています。溝状の落ち込みの底から縄文土器と考えられる土器片が出土しています。土器は水の浸食で磨滅しており、うっすらと縄目の痕跡が見られる程度です。破損などによって廃棄された可能性があります。不定形の土坑については未詳ですが竪穴住居の可能性もあります。居住域としては溝状の落ち込みに囲まれた標高の高い部分に存在していたと考えられ、遺構や遺物もその場所に集中しています。しかし、遺

物の出土量からも集落の中心ではなく縁辺部にあたると考えられます。(渡辺和行)



遺跡全景（北より）

森の原遺跡 東側調査区からは溝状遺構や性格不明遺構のほかに、いくつかの柱穴が検出されました。いずれも遺物が出土せず、時期は不明です。西側調査区からは溝跡や多くの柱穴、縄文土器の細片や炭化物を多く含む落ち込み状遺構が確認されました。多くの柱穴からは柱の痕跡が確認できましたが、調査区が狭いこともあって、建物を構成することはできませんでした。遺物は平安時代の須恵器や縄文土器が出土していますが、いずれも小片でした。特に縄文土器片は傷みが激しく

なっていました。

(高橋敏)



調査風景

寒河江市街の南西、最上川の北岸に沿った東西約 1.6km の広範囲に位置し、県内屈指の規模を有する旧石器時代～中世の複合遺跡です。周辺は果樹園や畑地として利用されてきましたが、高速道路建設や公園造成など近年の開発に伴って、数度にわたる発掘調査が行われてきました。

今回は一昨年から引き続く、最上川ふるさと総合公園整備事業に係る高瀬山遺跡（HO 地区）3 期の第 3 次調査となります。調査区は遺跡の南東端にある小丘陵「高瀬山」と最上川との間に形成された段丘中位面に立地します。県指定史跡「高瀬山古墳」や高速道路事業で実施された高瀬山遺跡（1 期）の調査区が近接しています。調査は給排水・電気・フェンスなど公園設備の埋設工事に沿った幅 1～2 m の線掘り（トレンチ調査）が中心で、住居跡・周溝等の大型遺構や遺跡の全容を捉えるまでには至っていません。

第 1・2 次調査では、縄文時代中期末葉～後期前葉（約 4000 年前）を主体とする大規模な集落跡をはじめ、奈良・平安時代の竪穴住居跡、古墳の周溝とみられる溝跡などが検出されています。第 3 次調査では、それらの

時代以外に、旧石器時代や中世に属する遺構や遺物が新たに見つかりました。

縄文時代以降の遺物を包含する黒ボク土（黒色火山灰土）の下層に堆積する褐色土の直上から、約 30cm 掘り下げた深さにかけて、登録数で 1200 点を超える多量の石器が出土しました。これらは、付近の最上川河床でも採取可能な頁岩けつがんの原石を打ち割った剥片で、地質学的な分析からは旧石器時代の約 1.5～2 万年前頃の所産せきじんと思われる。石刃を剥離した残りの石核、石刃に調整加工を施したナイフ形石器や彫刻刀形石器なども数点含まれています。石器群の集中ブロックは、周辺で採集した石で石器を製作した場所と考えられます。1.5 × 3.5 m ほどのテストピットの範囲内ではあるものの、石器組成において大型剥片や製品が少ないことから、製作された石器（石刃）は他に持ち出された可能性が高いと推測されます。

この他にも、古墳時代の円墳あるいは方形周溝墓の周溝と考えられる溝跡、その上に重複して中世の柵列と考えられるピット列が検出されました。ピットは長楕円形で底面に礫石を伴うのが特徴で、2 本組の柱穴である可能性が考えられます。いずれも出土遺物はなく、遺構の検出も一部分に限られますが、近接する高瀬山遺跡（1 期）でも同様の遺構が検出されており、関連するものと考えられます。

なお、北東に面する段丘崖では、活断層地形の保存を目的とした、約 600 m<sup>2</sup> の面調査を実施しました。活断層によって生じた 2 m を超える旧地形の段差を復元し、黒ボク土層を切る断層の裂け目を確認しました。

（今正幸）



トレンチ内に設定したテストピットから、旧石器時代の石器群が集中して出土しました。

でっぱりざかじょう  
出張坂城跡

鶴岡市

庄内平野に突き出た丘陵上に築かれた  
ひらやまじろ  
平山城です。国道7号の建設や鉄工団地の  
造成により、城跡の多くが失われてしま  
いましたが、土塁や郭の一部が残っていま  
どるい くるわ  
す。今年度は城跡の構造や形状を調べるため現在  
残っている地形の測量を行い、この調査を基  
に、来年度継続して発掘調査を行います。



出張坂城跡近景（北より）

きたはら ぬまた  
北原2遺跡・沼田1遺跡

村山市

北原2遺跡 7,000㎡を対象に調査を行った  
結果、縄文時代の遺構と遺物が見つかりま  
した。来年度以降に継続調査を行う予定です。

沼田1遺跡 18,000㎡を対象に調査を行  
いました。縄文土器や石器といっしょにピット  
等の遺構が少数見つかりました。



北原2遺跡遠景（北より）



沼田1遺跡遠景（南より）



夏休み親子発掘体験（馳上遺跡）



土器に触れてみよう

普及啓蒙活動

今年度行われた出前授業・センター見  
学・発掘体験・外部企画展示・センター  
参観デーなどの様子です。みなさんも、  
是非体験してみてください。



中山町歴史体験講座 アンギン編み



西郷第一小学校 センター見学



出前授業 弓矢体験



出前授業 火起し体験



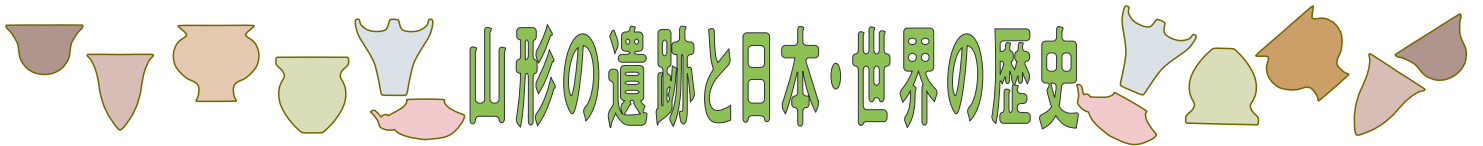
寒河江市少年少女交流体験 勾玉づくり



山形空港展示 センター参観デー 土器の復元体験



ふるさと考古学入門 石器作り



# 山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	●:22年度発掘調査遺跡	県内の主な遺跡	山形県の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代		上屋地 (飯豊町) 越中山 小国東山 (小国町) 弓張平B (西川町)	お仲間林 (西川町) 金谷原 (寒河江市) 角仁山 (大石町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な真岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する 原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	草創期	日向洞窟 (高島町) 火箱岩洞窟 (高島町)	大立洞窟 (高島町)	隆起線土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	
		早期	にひやく寺 (山形市) ●北原4 (村山市)	いるかい (尾花沢市) 坂ノ上 (山形市)	堅穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる 漆を使って文様を描いた土器がつくられる	農耕牧畜が起こる 落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる
		前期	●高瀬山 (寒河江市) 押出 (高島町)	小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	計画的な大集落があらわれる	三内丸山遺跡が繁栄する	エーゲ文明始まる
		中期	西ノ前 (山形市) 小反 (鮭川村) 空沢 (長井市) 小平4 (酒田市) 蕨山 (酒田市)	中川原C (新庄市) 西海洲 (村山市) 西向 (鶴岡市) 野新田 (鶴岡市) 熊ノ前 (山形市)	関東地方に貝塚があらわれる	ピラミッドが作られる	
		後期	●高瀬山 (寒河江市) ●北原2 (村山市) ●高瀬山 (寒河江市) 川口 (村山市)	小山崎 (遊佐町) かっぱ (最上町) 砂子田 (天童市)	集落が減少する	配石遺構がさかんに作られる	殷王朝がおこる
		晩期	宮の前 (村山市) ●作野 (村山市) ●沼田2 (村山市)	下叶水 (小国町) 釜淵C (真室川町) 北柳1 (山形市)	中国製青銅刀がもたらされる	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる	孔子生誕
AD1年 300年	弥生時代	北柳1・2 (山形市) 百刈田 (南陽市)	生石2 (酒田市) 庚壇 (南陽市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現 (230年頃) 前方後円墳がつけられる 大和の土師器が全国に広まる	アレクサンダー大王が生誕 ゲルマン民族大移動	
	古墳時代	畑田 (鶴岡市) 玉作2 (米沢市) ●鎌倉上 (米沢市) ●馳上 (山形市) 今塚 (山形市) 馬洗場B (山形市) 板橋2 (天童市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高島町) 廻り屋 (白鷹町)	比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 寶領塚古墳 (米沢市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳群 (山形市) 服部・藤治屋敷 (山形市) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋2・3 (川西町) 百刈田 (南陽市) 中里 (米沢市)	東北最大の円墳がつけられる 小規模な古墳群がつけられる 大規模な集落があらわれる	須恵器がつけられた マホメット生誕		
600年	飛鳥時代	北目古墳 (高島町) 安久津古墳群 (高島町)	羽山古墳 (高島町) 長手古墳 (米沢市)	出羽郡が建郡される (708年) 出羽柵が設けられる (709年)	聖徳太子摂政となる (593年) 十七条憲法を制定 (604年) 平城京に都をうつす (710年) 東大寺の大仏開眼 (752年) 長岡京に都をうつす (784年) 平安京に都をうつす (794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 (797年) 続日本紀ができる (797年) 胆沢城をつくる (802年)	唐王朝がおこる 李白・杜甫らが活躍	
700年	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 不動木 (河北町) 一ノ坪 (山形市)	牛森古墳 (米沢市) 木和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市)	出羽柵が秋田村高清水岡に移転する (733年)	大和の土師器が全国に広まる		
800年		平安時代	●馳上 (米沢市) ●北原4 (山形市) ●沼田2 (村山市) ●西谷地b (米沢市) ●清水 (村山市) ●田向 (村山市) ●田向2 (村山市) ●経塚森 (村山市) ●松橋 (村山市) ●森の原 (村山市) ●東熊野苗畑 (村山市) 南口A (庄内町) 山田 (鶴岡市) 川前2 (山形市・中山町) 小松原窯 (山形市) 城輪柵 (酒田市)	俵田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 手蔵田 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 玉作2 (鶴岡市) 的場 (天童市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・畑ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三条 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 今塚 (山形市) 三本木窯 (山形市)	大地震がおきる (850年) 鳥海山が噴火する (871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡となる (886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る (915年)	須恵器がつけられた 高麗王朝がおこる 宋王朝がおこる	
1200年	鎌倉時代	升川 (遊佐町) 大橋 (遊佐町) 志戸田柵 (山形市) 執行坂窯 (鶴岡市)	長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	鎌倉に幕府をひらく (1192年) 南北朝の動乱 (1336年) 室町に幕府をひらく (1338年)	マグナカルタ制定 チンギスハーン征西 ダンテが活躍		
1400年	室町時代	柳沢A (鶴岡市) 藤島城 (鶴岡市) 小田島城 (東根市) 長岡山 (南陽市)	高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 館山北館 (米沢市)	斯波兼頼が山形へ入部	明王朝がおこる ルネサンス全盛		
1500年		安土桃山時代	●出張坂城 (鶴岡市) 亀ヶ崎城 (酒田市) 清水城 (大蔵村) 山形城三の丸 (山形市)	大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥館 (村山市) 米沢城 (米沢市) 荒川2 (米沢市)	最上義光が最上家第11代当主となる (1570年) 出羽合戦 (長谷堂合戦1600年)	マゼラン世界一周 ガリレオが活躍	
1600年	江戸時代	新庄城 (新庄市) 観音堂 (山形市) 双葉町 (山形市) 洪江 (山形市) 坂ノ上 (山形市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三条 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 横軸柵 (西川町)	徳川家康江戸に幕府をひらく (1603年) 最上氏改易 (1622年)	清王朝がおこる アメリカ独立 フランス革命 リンカーンが活躍		